感染症発生動向調査
平成30年
第17週第18週合併号

（4月23日～5月6日）

京都市感染症週報

京都市感染症情報センター
（京都市衛生環境研究所）

http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000175159.html

◆ 今週のコメント （感染地域，感染経路については推定を含みます。）

・ **レジオネラ症（肺炎型）**の報告が2例（50歳代及び60歳代，いずれも男性）ありました。本年の累積報告数は8例となりました。

・ **アメーバ赤痢**の報告が3例（いずれも腸管アメーバ症）（第16週追加報告分1例含む）あり，本年の累積報告数は11例となりました。

・ **侵襲性インフルエンザ菌感染症**の報告が1例（60歳代男性）あり，症状は発熱・肺炎・菌血症です。本年2例目の報告です。

・ **侵襲性肺炎球菌感染症**の報告が3例（10歳未満，50歳代及び70歳代，いずれも男性）ありました。本年の累積報告数は33例となりました。

・ **梅毒（無症候）**の報告が3例（20歳代女性2例及び40歳代男性）ありました。感染経路はいずれも性的接触です。本年の累積報告数は33例となりました。

・ **播種性クリプトコックス症**の報告が1例（70歳代男性）（第16週追加報告分）あり，症状は骨病変です。感染地域は国内で，感染経路は鳥類の糞などとの接触です。本年初めての報告で，平成26年9月19日に五類感染症（全数把握感染症）に追加されて以降，京都市では4例目の報告となっています。届出基準等の詳細については，下記のホームページを御参照ください。
○厚生労働省「感染症法に基づく医師及び獣医師の届出について」
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/01-05-140912-3.html

・ **百日咳**の報告が2例（20歳代及び50歳代，いずれも女性）あり，症状は持続する咳です。本年の累積報告数は8例となりました。

・ 第18週は大型連休中で休診の医療機関が多いため，例年この期間は全体的に報告数が減少する傾向にあります。第18週の定点医療機関からの報告数は222例で，第17週の報告数466例の半分以下となっています。

◆ 今週のトピックス：＜急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）＞

5月１日より急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）が全数把握対象の5類感染症に追加されました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

・ 二類：結核 7例（第17週 6例，第18週 1例）（肺結核 2例，その他結核 4例，潜在性結核感染者1例）うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 114例（肺結核 44例，その他結核 31例，潜在性結核感染者 39例）うち喀痰塗抹陽性 21例】
・ 四類：レジオネラ症（肺炎型） 2例【1月以降の累積報告数 8例】
・ 五類：アメーバ赤痢 3例【1月以降の累積報告数 11例】
・ 五類：侵襲性インフルエンザ菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 2例】
・ 五類：侵襲性肺炎球菌感染症 3例【1月以降の累積報告数 33例】
・ 五類：梅毒 3例【1月以降の累積報告数 33例】
・ 五類：播種性クリプトコックス症 1例【1月以降の累積報告数 1例】
・ 五類：百日咳 2例【1月以降の累積報告数 8例】

定点把握の主な感染症

（市内定点数　インフルエンザ定点69，小児科定点43，眼科定点10，基幹定点1）

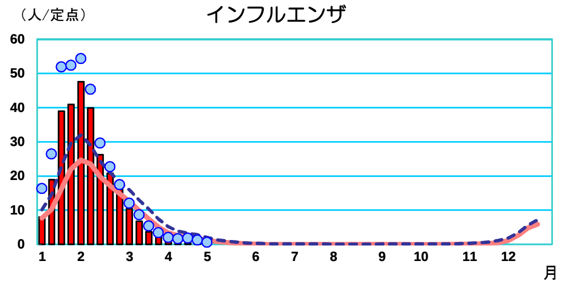
	平成30年 第17週			平成30年 第18週		
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数	感染症名	定点当たり報告数	報告数
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	インフルエンザ	0．59	41	インフルエンザ	0．20	14
小児科	① 感染性胃腸炎	6．63	285	① 感染性胃腸炎	3．19	137
（降順5位まで）	② A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1．60	69	② A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	0．81	35
	③ 突発性発しん	0．77	33	③ 突発性発しん	0．35	15
	④ 咽頭結膜熱	0．16	7	④ 水痘	0．12	5
	⑤ RSウイルス感染症	0．14	6	⑤ 咽頭結膜熱	0．09	4
眼科	流行性角結膜炎	0．70	7	流行性角結膜炎	0．40	4

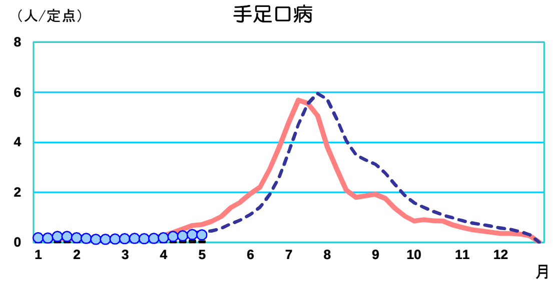
【次ページ以降の主な内容】
発生状況の概況グラフ　/　今週のトピックス：＜急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）＞
付表（疾病，行政区別報告数 / 年齢階級，疾病別報告数 / 週，疾病別報告数）

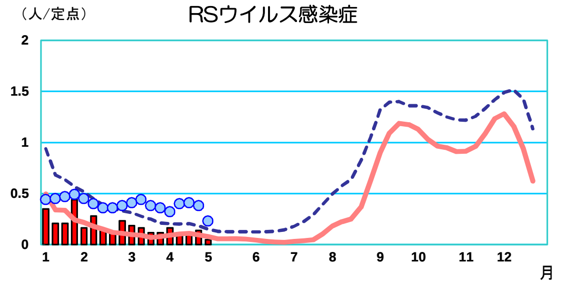
（注）京都市のデータは，平成30年5月9日現在の報告数で，全国の還元データと若干異なる場合があります。
また，本情報での患者数は，届出医療機関所在地での集計で，患者の住所を示すものではありません。
※ 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

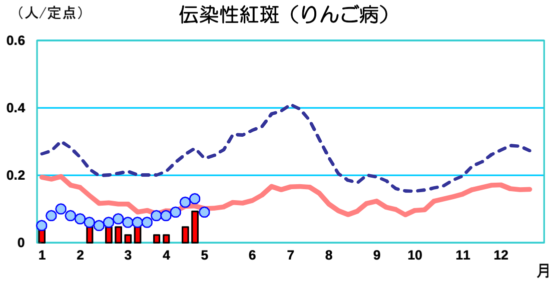
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ 及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成30年）

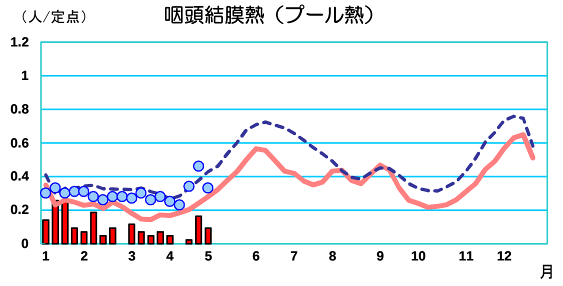
京都市_本年　京都市_過去５年平均値
全国_本年　全国_過去５年平均値

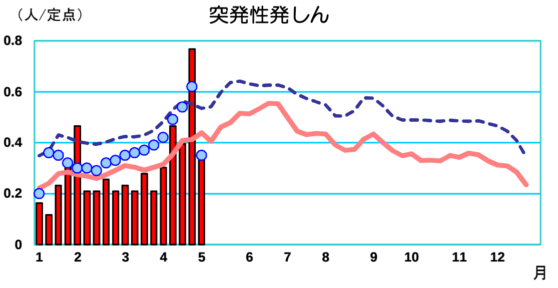


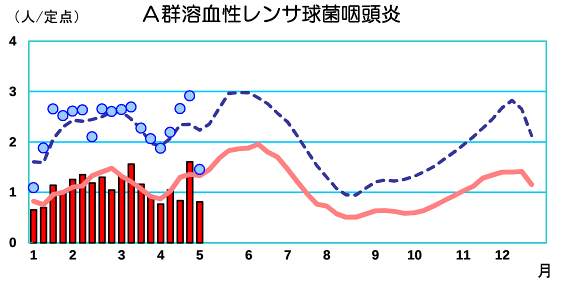


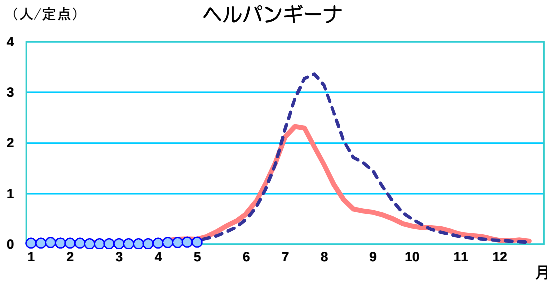


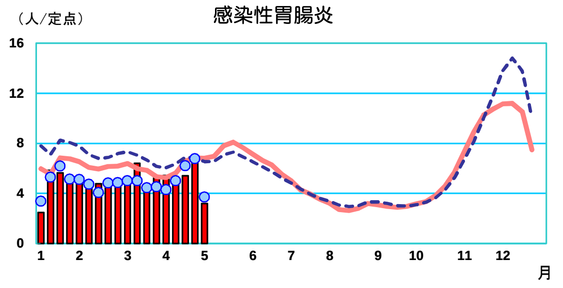


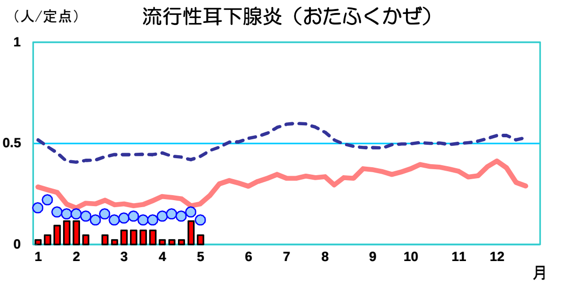


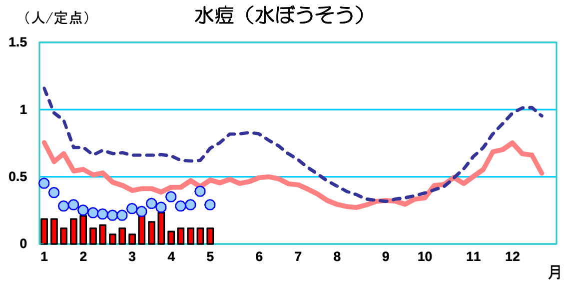












第18週(4月30日～5月6日)トピックス:＜急性弛緩性麻痺＞

5月1日より**急性弛緩性麻痺(Acute Flaccid Paralysis，以下「AFP」という。)**が全数把握対象の5類感染症に追加されました。対象は，急性灰白髄炎(以下「ポリオ」という。)以外の患者で，届出基準は，①15歳未満，②急性の弛緩性運動麻痺症状を伴って死亡した者，又は当該症状が24時間以上消失しなかった者，③明らかに感染性でない血管障害，腫瘍，外傷，代謝障害などでないこと及び痙性麻痺でないことの3つの要件をすべて満たすものです。

そもそも，AFPは，1988年にスタートしたWHOのポリオ根絶計画の中で提唱された概念で，急性に四肢の弛緩性運動麻痺を呈する疾患の総称です。ポリオは，当時135カ国で約35万人の患者がいると推定されていました。そこで，すべての5歳以下の子供たちに生ワクチンを集団接種し，AFP患者のウイルスサーベイランスを徹底するという戦略がとられました。

ポリオは，2000年には南北アメリカ，ヨーロッパ，西太平洋地域の根絶が達成されましたが，2000～2001年にはワクチン由来の流行が報告され，2004年～2005年にはポリオ常在国であるナイジェリアからの野生株ウイルス流出による流行が周辺国で発生しました。

2011年のポリオ発生国は16カ国(図1)でしたが，2018年4月現在，アフガニスタン，パキスタン，シリア，ナイジェリア及びコンゴ民主共和国の5カ国に減少しました(図2)。しかし，1人でも感染した小児がいれば，すべての国の小児にポリオへの感染の危険が生まれます。まさに今世界では，ポリオ根絶の正念場を迎えているといえます。

一方日本では，1960年にポリオの大流行があり，1961年に生ワクチンの緊急接種を行い，劇的な効果が見られました。1963年には生ワクチンの定期接種が始まり，ポリオ届出患者数は激減しました(図3)。しかし，生ワクチンは，飲んだ子どもの腸内で，約1ヶ月間ワクチンウイルスの増殖・排泄が見られ，免疫を持たない者が感染するおそれがあります。そこで，2012年に不活化ワクチンが導入された結果，ワクチン由来症例も含めてポリオの発生報告はなくなり，ポリオ根絶国となりました。ところがこれにより，従来AFP患者に必ず行ってきたポリオウイルスの検査について，その必然性がなくなるという事態を招きました。

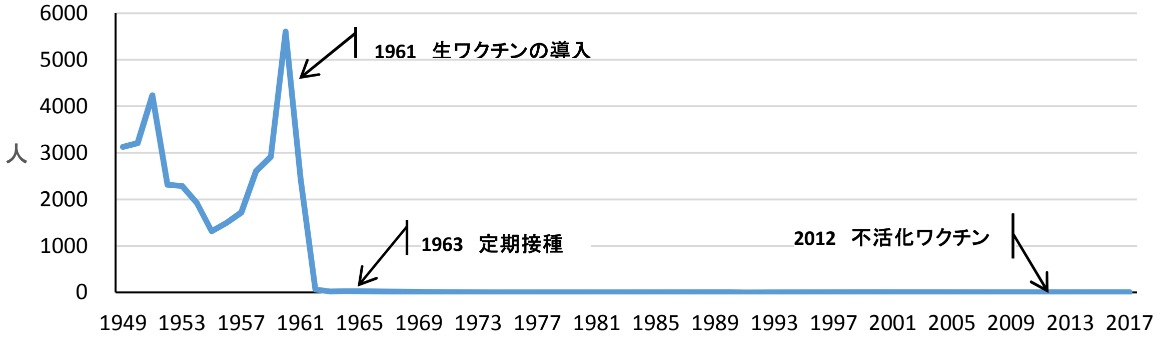
そんな中，2015年秋に日本でAFPの小児例が100例以上報告されました。直ちに疫学調査及び病原体検索等が実施され，2014年北米でエンテロウイルスD68流行時に多発した急性弛緩性脊髄炎に類似する症例が多いことが判明しました。調査結果は，「急性弛緩性麻痺を認める疾患のサーベイランス・診断・検査・治療に関する手引き」としてまとめられました(https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/AFP/AFP-guide.pdf 参照)。その診断・届出のフローチャートによると，まずAFP診断後，7日以内に管轄の保健所に届出，同時にポリオとの鑑別を速やかに行い，必要に応じてエンテロウイルスD68，エンテロウイルスA71をはじめとするエンテロウイルス属，ボツリヌス毒素その他について検討するという手順が示されました。

なお，AFP届出後にポリオウイルス又はボツリヌス毒素が検出された場合は，AFP届出を取下げ，改めて「急性灰白髄炎」，「ボツリヌス症」の届出を行う必要があります。AFPの5類感染症届出は，WHOのポリオ根絶計画を完成させるためにも必須のものであり，不明な点が多い急性弛緩性脊髄炎等の原因究明のためにも有効な調査です。

図1　2011年のポリオ発生国

図2　2018年のポリオ発生国(4月16日まで)

図3　日本の定型ポリオ患者数



平山宗宏，ポリオ生ワクチン緊急導入の経緯とその後のポリオ，小児感染免疫，189-196，2007　参照

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

疾病,行政区別報告数

集計対象：平成30年17週　　平成30年4月16日～平成30年4月22日　　データ入手日：平成30年5月9日

男女合計	インフルエンザ（※1）	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
北	6	1	−	2	2	−	−	−	−	−	−	−	−					
上京	1	−	−	2	6	−	−	−	1	−	−	−	−					
左京	−	3	−	4	86	2	−	−	1	−	−	−	−					
中京	2	−	−	10	11	−	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−
東山	2	1	−	2	14	1	−	1	−	−	−							
山科	1	−	−	7	5	1	−	1	8	−	2	−	−					
下京	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−							
南	12	−	−	4	30	−	1	1	6	−	−							
右京	4	−	1	20	26	−	1	1	8	−	1	−	7					
伏見	13	−	4	8	72	1	−	−	8	−	2	−	−					
西京	−	1	2	10	32	−	1	−	−	−	−	−	−					
京都市計	41	6	7	69	285	5	3	4	33	1	5	−	7	−	−	−	−	−

疾病,行政区別定点当たり報告数

男女合計	インフルエンザ（※1）	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
北	0.86	0.25	−	0.50	0.50	−	−	−	−	−	−	−	−					
上京	0.20	−	−	0.67	2.00	−	−	−	0.33	−	−	−	−					
左京	−	0.75	−	1.00	21.50	0.50	−	−	0.25	−	−	−	−					
中京	0.40	−	−	3.33	3.67	−	−	−	0.33	0.33	−	−	−	−	−	−	−	−
東山	0.67	0.50	−	1.00	7.00	0.50	−	0.50	−	−	−							
山科	0.14	−	−	1.40	1.00	0.20	−	0.20	1.60	−	0.40	−	−					
下京	−	−	−	−	0.50	−	−	−	−	−	−							
南	2.40	−	−	1.33	10.00	−	0.33	0.33	2.00	−	−							
右京	0.50	−	0.20	4.00	5.20	−	0.20	0.20	1.60	−	0.20	−	7.00					
伏見	1.18	−	0.57	1.14	10.29	0.14	−	−	1.14	−	0.29	−	−					
西京	−	0.20	0.40	2.00	6.40	−	0.20	−	−	−	−	−	−					
京都市計	0.59	0.14	0.16	1.60	6.63	0.12	0.07	0.09	0.77	0.02	0.12	−	0.70	−	−	−	−	−

※1　インフルエンザは，鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除く。
※2　細菌性髄膜炎は髄膜炎菌，肺炎球菌，インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。
※3　クラミジア肺炎はオウム病を除く。
※4　感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

T3201

疾病,行政区別報告数

集計対象：平成30年18週　　平成30年4月23日～平成30年4月29日　　データ入手日：平成30年5月9日

男女合計	インフルエンザ（※1）	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
北	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	4					
上京	1	–	–	4	8	–	–	–	3	–	–	–	–					
左京	–	–	–	5	14	2	–	–	3	–	1	–	–					
中京	2	–	1	5	15	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–
東山	–	–	–	1	20	–	–	–	1	–	–							
山科	1	1	–	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–					
下京	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–							
南	1	–	–	1	12	–	2	–	1	–	–							
右京	1	–	2	11	22	1	–	–	2	–	–	–	–					
伏見	6	–	–	3	39	2	–	–	5	–	1	–	–					
西京	–	1	1	4	6	–	–	–	–	–	–	–	–					
京都市計	14	2	4	35	137	5	2	–	15	2	2	–	4	–	–	–	–	–

疾病,行政区別定点当たり報告数

男女合計	インフルエンザ（※1）	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
北	0.29	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	4.00					
上京	0.20	–	–	1.33	2.67	–	–	–	1.00	–	–	–	–					
左京	–	–	–	1.25	3.50	0.50	–	–	0.75	–	0.25	–	–					
中京	0.40	–	0.33	1.67	5.00	–	–	–	–	0.67	–	–	–	–	–	–	–	–
東山	–	–	–	0.50	10.00	–	–	–	0.50	–	–							
山科	0.14	0.20	–	0.20	0.20	–	–	–	–	–	–	–	–					
下京	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–							
南	0.20	–	–	0.33	4.00	–	0.67	–	0.33	–	–							
右京	0.13	–	0.40	2.20	4.40	0.20	–	–	0.40	–	–	–	–					
伏見	0.55	–	–	0.43	5.57	0.29	–	–	0.71	–	0.14	–	–					
西京	–	0.20	0.20	0.80	1.20	–	–	–	–	–	–	–	–					
京都市計	0.20	0.05	0.09	0.81	3.19	0.12	0.05	–	0.35	0.05	0.05	–	0.40	–	–	–	–	–

※1　インフルエンザは，鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除く。
※2　細菌性髄膜炎は髄膜炎菌，肺炎球菌，インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。
※3　クラミジア肺炎はオウム病を除く。
※4　感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3202

京 都 市 感 染 症 発 生 動 向 調 査 情 報

年齢階級，疾病別報告数

集計対象：平成30年17週　　平成30年4月23日～平成30年4月29日　　データ入手日：平成30年5月9日

京都市 男女合計	年齢1 年齢2 年齢3 年齢4	総数 総数 総数 総数	～5ケ月 ～5ケ月 ～5ケ月 0歳	～11ケ月 ～11ケ月 ～11ケ月 1歳-	1歳 1歳 1歳 5歳-	2歳 2歳 2歳 10歳-	3歳 3歳 3歳 15歳-	4歳 4歳 4歳 20歳-	5歳 5歳 5歳 25歳-	6歳 6歳 6歳 30歳-	7歳 7歳 7歳 35歳-	8歳 8歳 8歳 40歳-	9歳 9歳 9歳 45歳-	10歳- 10歳- 10歳- 50歳-	15歳- 15歳- 15歳- 55歳-	20歳- 20歳- 20歳以上 60歳-	30歳- 30歳- 65歳-	40歳- 40歳- 70歳以上	50歳- 50歳-	60歳- 60歳-	70歳- 70歳以上	80歳以上
インフルエンザ (※1)	年齢1	41	−	1	1	3	1	3	5	3	−	−	−	−	2	2	5	6	3	3	2	1
RSウイルス感染症	年齢3	6	−	3	1	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−						
咽頭結膜熱	年齢3	7	1	1	1	3	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	年齢3	69	1	−	6	2	7	11	8	11	6	4	3	7	−	3						
感染性胃腸炎	年齢3	285	1	32	41	33	32	26	22	17	7	15	5	19	9	26						
水痘	年齢3	5	−	−	1	−	−	1	1	−	1	1	−	−	−	−						
手足口病	年齢3	3	−	2	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−						
伝染性紅斑	年齢3	4	−	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	2	−	−						
突発性発しん	年齢3	33	−	12	19	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−						
ヘルパンギーナ	年齢3	1	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−						
流行性耳下腺炎	年齢3	5	−	−	−	−	−	1	1	1	1	−	1	−	−	−						
急性出血性結膜炎	年齢2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
流行性角結膜炎	年齢2	7	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	3	2	1	−	−	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−				
無菌性髄膜炎	年齢4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−				
マイコプラズマ肺炎	年齢4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−				
クラミジア肺炎 (※3)	年齢4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−				
感染性胃腸炎 (※4)	年齢4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−				

年齢階級，疾病別定点当り報告数

京都市 男女合計	年齢1 年齢2 年齢3 年齢4	総数 総数 総数 総数	～5ケ月 ～5ケ月 ～5ケ月 0歳	～11ケ月 ～11ケ月 ～11ケ月 1歳-	1歳 1歳 1歳 5歳-	2歳 2歳 2歳 10歳-	3歳 3歳 3歳 15歳-	4歳 4歳 4歳 20歳-	5歳 5歳 5歳 25歳-	6歳 6歳 6歳 30歳-	7歳 7歳 7歳 35歳-	8歳 8歳 8歳 40歳-	9歳 9歳 9歳 45歳-	10歳- 10歳- 10歳- 50歳-	15歳- 15歳- 15歳- 55歳-	20歳- 20歳- 20歳以上 60歳-	30歳- 30歳- 65歳-	40歳- 40歳- 70歳以上	50歳- 50歳-	60歳- 60歳-	70歳- 70歳以上	80歳以上
インフルエンザ (※1)	年齢1	0.59	−	0.01	0.01	0.04	0.01	0.04	0.07	0.04	−	−	−	−	0.03	0.03	0.07	0.09	0.04	0.04	0.03	0.01
RSウイルス感染症	年齢3	0.14	−	0.07	0.02	−	0.05	−	−	−	−	−	−	−	−	−						
咽頭結膜熱	年齢3	0.16	0.02	0.02	0.02	0.07	−	0.02	−	−	−	−	−	−	−	−						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	年齢3	1.60	0.02	−	0.14	0.05	0.16	0.26	0.19	0.26	0.14	0.09	0.07	0.16	−	0.07						
感染性胃腸炎	年齢3	6.63	0.02	0.74	0.95	0.77	0.74	0.60	0.51	0.40	0.16	0.35	0.12	0.44	0.21	0.60						
水痘	年齢3	0.12	−	−	0.02	−	−	0.02	0.02	−	0.02	0.02	−	−	−	−						
手足口病	年齢3	0.07	−	0.05	0.02	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−						
伝染性紅斑	年齢3	0.09	−	−	−	0.02	0.02	−	−	−	−	−	−	0.05	−	−						
突発性発しん	年齢3	0.77	−	0.28	0.44	0.05	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−						
ヘルパンギーナ	年齢3	0.02	−	−	−	−	−	0.02	−	−	−	−	−	−	−	−						
流行性耳下腺炎	年齢3	0.12	−	−	−	−	−	0.02	0.02	0.02	0.02	−	0.02	−	−	−						
急性出血性結膜炎	年齢2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
流行性角結膜炎	年齢2	0.70	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.10	0.30	0.20	0.10	−	−	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−				
無菌性髄膜炎	年齢4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−				
マイコプラズマ肺炎	年齢4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−				
クラミジア肺炎 (※3)	年齢4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−				
感染性胃腸炎 (※4)	年齢4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−				

※1 インフルエンザは，鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除く。
※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌，肺炎球菌，インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。
※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。
※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3202

京 都 市 感 染 症 発 生 動 向 調 査 情 報

年齢階級，疾病別報告数

集計対象：平成30年18週　　平成30年4月30日～平成30年5月6日　　データ入手日：平成30年5月9日

京都市	年齢1	総数	～5ケ月	～11ケ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	～5ケ月	～11ケ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ケ月	～11ケ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
男女合計	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	14	－	－	－	1	－	3	－	－	－	1	1	－	－	2	－	1	－	1	3	1
RSウイルス感染症	年齢3	2	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽 頭 結 膜 熱		4	－	－	1	－	－	2	1	－	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		35	－	－	3	4	7	3	2	4	4	3	2	1	－	2						
感染性胃腸炎		137	1	14	32	17	9	17	5	7	4	5	3	10	4	9						
水　　痘		5	－	－	3	1	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－						
手 足 口 病		2	－	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
伝 染 性 紅 斑		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
突発性発しん		15	－	4	8	2	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		2	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		2	－	－	1	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				

年齢階級，疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ケ月	～11ケ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	～5ケ月	～11ケ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ケ月	～11ケ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
男女合計	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	0.20	－	－	－	0.01	－	0.04	－	－	－	0.01	0.01	－	－	0.03	－	0.01	－	0.01	0.04	0.01
RSウイルス感染症	年齢3	0.05	0.02	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽 頭 結 膜 熱		0.09	－	－	0.02	－	－	0.05	0.02	－	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.81	－	－	0.07	0.09	0.16	0.07	0.05	0.09	0.09	0.07	0.05	0.02	－	0.05						
感染性胃腸炎		3.19	0.02	0.33	0.74	0.40	0.21	0.40	0.12	0.16	0.09	0.12	0.07	0.23	0.09	0.21						
水　　痘		0.12	－	－	0.07	0.02	－	－	－	－	－	－	－	0.02	－	－						
手 足 口 病		0.05	－	0.02	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
伝 染 性 紅 斑		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
突発性発しん		0.35	－	0.09	0.19	0.05	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		0.05	－	－	0.02	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		0.05	－	－	0.02	－	－	－	－	0.02	－	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		0.40	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.40	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				

※1　インフルエンザは，鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除く。
※2　細菌性髄膜炎は髄膜炎菌，肺炎球菌，インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。
※3　クラミジア肺炎はオウム病を除く。
※4　感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象：平成30年第18週

週，疾病別報告数　　　　データ入手日：平成30年5月9日

京都市　男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	160	66	52	37	41	14
RSウイルス感染症	5	7	5	5	6	2
咽頭結膜熱	3	2	−	1	7	4
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	33	45	36	69	35
感染性胃腸炎	225	234	217	233	285	137
水痘	10	4	5	5	5	5
手足口病	1	3	1	3	3	2
伝染性紅斑	1	1	−	2	4	−
突発性発しん	9	13	20	17	33	15
ヘルパンギーナ	2	1	1	2	1	2
流行性耳下腺炎	3	1	1	1	5	2
急性出血性結膜炎	−	−	−	−	−	−
流行性角結膜炎	3	2	4	2	7	4
細菌性髄膜炎 (※2)	−	−	−	−	−	−
無菌性髄膜炎	−	−	−	−	−	−
マイコプラズマ肺炎	−	−	−	−	−	−
クラミジア肺炎 (※3)	−	−	−	−	−	−
感染性胃腸炎 (※4)	−	−	−	−	−	−
合計	461	367	351	344	466	222

週，疾病別定点当たり報告数

京都市　男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	2.32	0.96	0.75	0.54	0.59	0.20
RSウイルス感染症	0.12	0.16	0.12	0.12	0.14	0.05
咽頭結膜熱	0.07	0.05	−	0.02	0.16	0.09
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.91	0.77	1.05	0.84	1.60	0.81
感染性胃腸炎	5.23	5.44	5.05	5.42	6.63	3.19
水痘	0.23	0.09	0.12	0.12	0.12	0.12
手足口病	0.02	0.07	0.02	0.07	0.07	0.05
伝染性紅斑	0.02	0.02	−	0.05	0.09	−
突発性発しん	0.21	0.30	0.47	0.40	0.77	0.35
ヘルパンギーナ	0.05	0.02	0.02	0.05	0.02	0.05
流行性耳下腺炎	0.07	0.02	0.02	0.02	0.12	0.05
急性出血性結膜炎	−	−	−	−	−	−
流行性角結膜炎	0.30	0.20	0.40	0.20	0.70	0.40
細菌性髄膜炎 (※2)	−	−	−	−	−	−
無菌性髄膜炎	−	−	−	−	−	−
マイコプラズマ肺炎	−	−	−	−	−	−
クラミジア肺炎 (※3)	−	−	−	−	−	−
感染性胃腸炎 (※4)	−	−	−	−	−	−
合計	9.55	8.11	8.01	7.83	11.02	5.35

※1 インフルエンザは，鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが，新型インフルエンザのうち，A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌，肺炎球菌，インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。